

八戸地域漁業復興プロジェクト

青森県八戸市

事業実施者：一般社団法人日本トロール底魚協会 使用船舶名：第五十一開洋丸(605トン)
支援期間：平成25年8月25日～平成28年8月24日 (遠洋底びき網漁業)

(取組の内容)

- 改革型漁船の導入：欧州の先進漁撈設備を採用し、居住環境を大幅に改善したトロール漁船を導入
- 新漁場の安定操業：モーリシャス共和国ポートルイスを基地とし、南西インド洋公海操業を実施
- 衛生の高度化：EU衛生基準を満たす高度な加工場を設置
- 国内消費がほとんどないオレンジラフィーを除く全漁獲物を八戸港に水揚
- 製品形態：スラリーアイスによる予冷で鮮度を向上し、選別を高精度化して高付加価値化



改革型漁船導入



販促写真用試作
キンメダイ料理

(事業の成果)

- 改革型漁船を導入し、最終年度にインド洋5航海、天皇海山域1航海を行い、キンメダイ等を主体に1,272トンの水揚げし、760百万円(販売単価：震災前465円/kg→597円/kg)の水揚金額を得た。最終年度、水揚数量は計画を下回ったものの、水揚金額は計画とほぼ同程度を確保し、**償却前利益85百万円が得られた。**
- 居住環境が大幅に改善され、高精度選別機の採用などにより**労働負荷が削減**された。
- コルトノズル(プロペラを円形の整流板で覆い、推進力を集中して省エネ効果を生むもの)の採用により曳網時の燃油使用量が削減され、計画の目標値2,928klに対し約187kl少ない燃油使用量となり、所期の狙いを上回る**燃油削減効果**を示した。
- インド洋で漁獲された大型キンメダイを中心に市場開拓・販促活動を行った結果、当該漁船の指名買いが起き、漁獲物が高値で取引されるようになった。(注：数値は最終年度の数字を示す。)